

# 保育者になるための読書案内

これから社会に出て、仕事に就く人のために

2017

まえがき

これから保育者になったり、社会に出て行くみなさんにとって、大切なことは、自ら考え、行動する力を養うことではないでしょうか。こうしたことは、案外見落とされがちです。それは、当たり前だと思われているからです。

しかし、少しでも時間があったら、本当に当たり前のことなのかを考えてみるとよいのではないのでしょうか。ついでに、そんなことをどこかで習ったことがあるかどうかについても。

もし、そうした経験がなかったとしたら、自ら考え、行動する力というスキルは、自分で切り開いていかなければなりません。そのときに、どうしたらよいでしょうか？

読書だけがその役に立つ、などとは言いません。でも、これから先、社会人となり、自分で何かをしなければならなくなったとき、相談相手になってくれるのではないのでしょうか。だって、本は、あなたがたの先達によって書かれたものですから。次のような構成を考えてみました。

## 第1部 保育者になるための読書案内

ここには、先生方からのメッセージが収められています。みなさんが、これから保育者になったり、社会人になるときの参考になるような本が紹介されています。いつでもいいです。ぜひ、手にとって、目をとおしておいてみてください。

### 第2部 いつでも、どこでも、どんなときでも、あなたのそばに、本を

ここで紹介する本は、教科書のようなものでも、また、娯楽のための本といったものでもない、中間的なものです。これらを読むことによって、人間形成の基礎をつくることになるのではないかと、人とかかわる仕事に就くための一助となるのではないかと、考えました。2016年度の読書会で取り上げた本から選びました。本について話をするって楽しいよ、というお誘いです。

## 第1部 保育者になるための読書案内

倉橋惣三『小さな太陽』(フレーベル館 2011)ほか

亀谷美代子

倉橋惣三・ことば 大豆生田啓友・撰／小西貴士・写真『小さな太陽』(フレーベル館 2011)

この本は、ポストカードブックです。16枚の子どもの写真に倉橋惣三が著した「育ての心」の詩的な言葉が添えられています。「小さな太陽」というタイトルは、「天の太陽は雲につつまれる日があっても、ここの小さな太陽たちは、いつだって好天気だ」という文章からとられています。あなたも、保育する中で、たくさんの子どもの表情、仕草、心に出会うことでしょう。そして、『育ての心』も読んでください。

繁多進『愛着の発達』(大日本図書 1987)

著者の繁多先生は横浜女子短期大学の保育センターの研修を長年担当してくださり、多くの保育者に「愛着関係」の大切さを具体的にそして科学的に講義していただきました。

保育がうまくいけなくなったり、理解しにくい子どもに出会ったり、子どもの素敵な可能性に接した時……読んでください。親と子ども、子どもと保育者、人との関係の原点が示されると思います。

時実利彦『人間であること』(岩波新書 1973)

保育している中で、「子どもはどうして…?」「親子って何?」「家族って何?」……と、そして、あなたも含め「人間って何?」と思ったら、読んでください。20億年前ごろから、この地球上に生命が誕生し、その生命の一つとして、人間は他の動物が発生したり、絶滅したりする中、今も歴史を繋げ、文化を生み出し生活しています。いいかえれば「保育」はその一端を担っています。「人間」を知り、「保育」の意味を探る一つの手立てになると思います。

以上は保育の近・現代における保育・幼児教育思想、心理的、生理学的解明から人間の発達の原理と子育てにおける意義を説いています。それに加え松田道雄『定本育児の百科』(岩波文庫 2008) は、昭和 40 年代、当時代表的な各家庭が備えた「育児書」です。保育所、幼稚園での保育の参考書の源になっていた本書が 2007 年にリニューアルされて、文庫本 3 巻として出版され、読まれ続け 2013 年現在第 9 刷となりました。

そして、育児が社会化された現代、2016 年に秋田喜代美監修『あらゆる学問は保育につながる』(東京大学出版会) が出版され、東京大学に「東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター」が誕生しました。本書は前保育学会長の秋田喜代美氏が中心に 10 名の研究者が第 1 部「社会と保育」、第 2 部「発達と保育」、第 3 部「保育と学問」に著してい

ます。彼等は「子育ては、学問にとって最高難度の研究テーマ、あらゆる学問領域の専門家が結集し、新しい知の地平を切り拓く」とし、「保育」の奥深さを現わしています。

柴田悠『子育て支援が日本を救う』(勁草書房 2016) は、京都大学人間・環境学研究科の准教授が「経済成長率」「労働生産性」「出生率」「子どもの貧困率」「自殺率」などの重要な社会指標に対し、子育て支援など社会保障政策がどのように影響するか統計的に分析し、「子育て支援が日本を救う」という結論を導いています。

白石正久『発達の扉 子どもの発達の道すじ 上』(かもがわ出版 1994)

佐野 真弓

この本は、私が保育者だった時そして今でも、とても大事にしている一冊です。再就職してお世話になった園長先生が、「自分の保育に悩んだり躓いたりした時は、子どものことを考えることから道は開けます」と教えてくださいました。そんな時出会ったのがこの本です。子どもの発達を、できたできないでは無く、子ども自らが乗り越えていく一歩前をいく活動と捉え、乗り越えていく葛藤を支え励ます大人のあり様とありのままの子どもの姿を通し書かれています。落ち込んだ時はこの本を読んで、「そうだ目の前の子ども一人ひとりを大切にしていこうことが私の仕事」と思ってきました。皆さんも、

自分の保育に悩んだり落ち込んだりしたら、ぜひ読んでみてください。著者自らが撮影した子どもたちの生き生きとした目とかわいい表情の写真と、まるで講演でも聞いているような優しく語りかけるような文章は、前頭葉に染入る様な心地よさが感じられます。

津守真『保育者の地平－私的体験から普遍に向けて－』(ミネルヴァ書房 1997)

本田 幸

津守真『保育者の地平－私的体験から普遍に向けて－』(ミネルヴァ書房 1997)

著者の津守真先生は発達心理学の研究者として、長年にわたり子どもの研究をされてきた方

です。この『保育者の地平』は、著者が 1983 年から 12 年間、愛育養護学校の校長として保育の場で、実践者として子どもとの関わり、保育をしてきた体験に基づいてまとめられた本で

す。ご自身の保育者第1日目から、12年間の保育者としての実践が書かれています。5年目からは、担任も経験されています。この本を通して保育者にとって大切なのは子どもと過ごす「いま」であるということ強く教えられます。さらに、保育を実践する上で子どもを理解することの難しさや担任としての悩みなどにも触れられています。そのような意味でこの本は保育論であり、保育者論でもあります。私は、保育は、言葉や理論で表現されるほどに簡単ではなく、実践することは本当に難しいことであると常々思っています。これから、保育の道を歩もうとするみなさんが、何かの時に思い出していただければと思います、紹介させていただきます。

吉村真理子著・森上史朗〔ほか〕編『**保育実践の創造－保育とはあなたがつくるもの－**』（ミネルヴァ書房 2014）

本書は、著者吉村真理子さんの35年にわたる保育の実践記録を、改めて復刊したものです。30年以上前の記録にもかかわらず、そこから学ぶことはたくさんあります。それは、著者吉村氏が保育という仕事に正面から向き合い、保育の面白さ、奥深さを感じながら仲間とともに保育をつくり上げてきたからではないかと思えます。吉村氏は「保育をするよろこび」からの出発が大切であると述べています。この本には、著者が保育の中で困難な場面に遭遇した時、それを知恵と工夫と仲間同士の協力（協働）で乗

り越えてしまう事例が書かれています。そこには著者が、前向きに、真摯に、時にユーモアも忘れずに保育に取り組んできた姿勢を感じ、私自身多くのことを学びました。この本の、「－保育とはあなたがつくるもの－」という著者からのメッセージは、いつまでも私に残るものとなりました。

エリーズ・ボールディング著・松岡享子訳『**子どもが孤独（ひとり）でいる時間（とき）**』（こぐま社 1998）

人には、ひとりで静かに思いを巡らせたり、想像したりする時間が必要な時があります。この本は子どもにとってひとりの時間を“孤独”としてマイナスに捉えるのではなく、その積極的な意味を教えてください。

これから、保育の場で様々な子どもに出会うことと思います。時には園庭の虫をじっと観察したり、友だちの様子を保育室の傍らで見えたり、何かを作ることに夢中になっていたり、ひとりの時間を過ごす子どももいることでしょう。そのような時、保育者として「○○ちゃん、早くお友だちと遊べるようにならないかな」と焦るかもしれません。

子どもがひとりでいる時間も時には必要なこともあるのだというこの本のメッセージを読むと、ゆっくりと子どもの育ちを見守っていこうという気持ちを持つことができます。

市川伸一『**学ぶ意欲の心理学**』（PHP研究所 2001）

細野 美幸

この本では、「やる気を出す」ということについて具体的に分かりやすく説明しています。第1章では心理学によって「やる気」について説明しています。第2章・第3章では、精神科医の和田誠さん、および、教育社会学が専門の荻谷剛彦先生との対談によって、学際的な視点から「やる気」について討論しています。最後の第4章では、実際に私たちが生活の中でどうやって「やる気」を出していったらいいのかを考えていきます。日常生活では「やる気を出さなくてはいけないけれど出てこない」というこ

とがたくさんあります。その時に、どういう状況を整えればいいのか、どのような気もち方をすればやる気が引き出されるのか、ということを考えるためのヒントが数多く盛り込まれています。

専門用語が使われている箇所もあり、難しく感じるかもしれません。しかし、文体には「～です」「～ます」が用いられ、まるで著者の話を聞いているようで、読み口は軽妙です。子どもたちのために、また、自分自身のために、読んでおいてもらえると嬉しい1冊です。

## 第2部 いつでも、どこでも、どんなときでも、あなたのそばに、本を

小川洋子 『博士の愛した数式』（新潮文庫 2005）

### 1. 友愛数

【友数】amicable numbers 一方が他方の約数（ただし自分自身は除く）の和になっている2数のこと。例えば220と284は友数である。（中略）友愛数、親和数などの訳もある。（『数学事典』朝倉書店）

記憶が80分しかもたない64歳の数論専門の元大学教師（博士）と、新しい家政婦（私）とその息子（ルート）、そして未亡人（博士の義理の姉）の物語。博士は、その病気のため、忘れてはいけないことを紙に書いて、いつも着ている背広にクリップでとめている。そんな博士と、「私」は、220（私の誕生日）と284（博士が大学時代学長賞を獲った時に貰った腕時計に刻んであるNo.）が友愛数で結ばれていることが判明し、「私」は博士との運命的なつながりを見いだす。そして、博士はルートを途方もなくかわいがり、母一人子一人の家族に愛情の幸せをもたらす。

### 2. $e^{\pi i}+1=0$

オイラーの公式「 $e^{\pi i}+1=0$ 」は「 $\pi$ と $i$ を掛け合わせた数で $e$ を累乗し、1を足すと0になる」ことを証明している。その真理は本文にある「私」による解説が分かりやすい。「果ての果てまで循環する数（ $e$ と $\pi$ ）と、決して正体を見せない虚ろな数（ $i$ ）が、簡潔な軌跡を描き、一点に着地する。どこにも円は登場しないのに、予期せぬ宙から $\pi$ が $e$ の元に舞い下り、恥ずかしがり屋の $i$ と握手する。彼らは身を寄せ合い、じっと息をひそめているのだが、一人

の人間が1つだけ足算をした途端、何の前触れもなく世界が転換する。すべてが0に抱き留められる。」（p.197-8）

この公式は、博士と「私」とルートの幸せな日々が引き裂かれた時、博士の想いを伝える重要なキーとして登場する。正直、公式の深い真理は分からないが、上記の「私」による解説をたよりにどんな意味かを考えると、「 $e$ 」を「 $\pi$ 」と「 $i$ 」で累乗する、すなわち「私」とルートで博士を累乗する。「1」は未亡人（博士の義理の姉）であろう。 $e^{\pi i}$ は一人として欠けてはいけない、一緒になくてはいけなし、さらに「1」が足されることで世界が完結する、ということではないだろうか。博士の愛情が感じられるいとおしい公式である。

### 3. 神の手帳

博士は、自ら取り組んでいる数学の問題を解くことを「自分が生まれるずっと以前から、誰にも気づかれずそこに存在している定理を、掘り起こすんだ。神の手帳にだけ記されている真理を、一行ずつ、書き写してゆくようなものだ。」（p.68）と言っている。本書を読むと、数学を、非現実的で難解なものでしかとらえていなかった自分が恥ずかしくなる。この世のあらゆる事象を数式でまとめること（神の手帳から発掘すること）が数学であり、なによりもスマートで美しい学問であるということに初めて気づく。  
(O)

柚木麻子 『本屋さんのダイアナ』（新潮文庫 2014）

### 1. 本で結ばれた友情

家庭の事情を伺わせるような、小学生にして金髪のダイアナ（「大穴」）と、社会的にも認められた家庭で育つお嬢様の彩子。まったく正反対の境遇に生まれた二人の少女に、本が大好きという共通点で友情が芽生えます。

けれど、自分にないものを持つ相手が羨ましく、その気持ちが嫉妬となつてぎくしゃくした

り、でもかけがえのない存在だったり……友情は大変。けれど、もがきながら少女が大人へと成長する姿は、力強くたくましい。そして二人を支え、大きな力となったのは本。この小説には『嵐が丘』『ジェイン・エア』『ボヴァリー夫人』、森茉莉、幸田文……など、本好きな二人の会話から様々な本や作家が登場するのも魅力。

## 2. いい本を読んできたのに

前半は 10 代の瑞々しさがキラキラして一気に読み進むことができる。やがて大学に進学した優等生の彩子は、迷うことなく文芸サークルに入るのだと読者は想像する。けれどお遊びサークル「シュガー」に入部したことで運命が狂い始める。軽薄な男子学生と付き合い、後半は想像していなかった展開が重くのしかかる。「昨日までの自分には戻れないんだ。永久に。」(p.179)、「あの頃に戻りたいなんて、思っただけはいけない」(p.199) という台詞は、いい子で生きてきた自分との決別と諦めの瞬間。悲しいけれど彩子は落ちていく。

一方ダイアナは、見た目の派手さとは裏腹な、真面目で不器用な生き方が意外だった。印象に残ったのは、母親との葛藤を抱え「あんなにいい本を読んできたのに、何一つ血肉にすることができなかつた……、物語の世界の女の子たちに勇気と知恵をもらって生きてきたはずなのに……どう間違ってしまったのだろう」(p.158) と、もだえ苦しむ言葉。この思いは彩子も同じだったのではないか。

## 3. 真実と己を見つめるために必要なもの

一番お互いを必要としたい時に、些細なことですでに疎遠となってしまった二人は、自分の足で生きていくほか手段はない。彩子は思う、ダイアナのように「自分を取り巻く状況を、真実を、そして己を、曇りなき目で見つめるのだ」(p.225) と、自分が受けた傷を力に変える。そして「なんびたりとも、この神崎彩子を縛ることはできない。私に命令できるのは、この世界で私ひとりだけ」(p.226)。怖くても自分の道は自分で切り開く勇気を持つ。

経済的な理由で大学進学を諦めたダイアナも、コツコツと努力して本屋になる夢を叶えた。この小説の魅力は、挫折しそうな時々で本によって救われること、そして本によって結ばれた友情。辛いことを乗り越えて再会した二人に、頑張ったねと声をかけてあげたくなった。

本を読んでも役に立たないと思うこともあるかもしれないけれど、読書は知らないうちに考える力、乗り越える力、人を思いやる力を養ってくれるものだと感じた。(H)

# 野坂昭如 『火垂るの墓』 (新潮文庫 2016)

## 1. はじめに

この本は短編集で、タイトルの 2 編が直木賞受賞作品である。『火垂るの墓』はジブリで映画化されたので知っている人とも多いと思うので、ここでは『アメリカひじき』を選んだ。『アメリカひじき』は昭和 42 年頃の話で、アメリカ人老夫婦ヒングスさんが自宅に来ることになり自分の受けてきた英語教育についてや戦後の生活を思い出しながら接待をする数日間の話である。

## 2. アメリカからの来客

この話は主人公である俊夫の自宅の庭に落下傘で降りてきたアメリカ人に挨拶をされ、どう返事をするかを悩んでいる所で目が覚める夢からはじまる。妻がハワイで知り合ったアメリカ人の老夫婦が今日、自宅に来る。俊夫にも相手をするようにと言われ、昔のいい加減な英語の授業と卒業後アメリカ人相手の売春斡旋のような仕事をしてきたことなどを思い出し、「絶対に英語は使わない。日本語で通す」と思いながら憂鬱な気持ちで老夫婦を迎える。俊夫自身は

嫌で嫌でしょうがないようだ。

## 3. 俊夫の中のアメリカ

思い出の中に B29 から支援物資らしき物がドラム缶で投下され、地区で分け合った。その中に黒くて縮れた黒い糸くずのような物があり、なんだかわからないのでひじきのような物だろうと煮て食べてみるが非常に不味い。後にこれは「ブラックデー」(紅茶) である事がわかったが、どの家にも残っていなかったらしい。他にも MJB のハーフポンド缶、米 7 日分相当のチューインガムの配給など食べ物のことだけではなく、DDT や戦時中に教えられたことのない加減さなど、昭和 20 年頃のアメリカとの格差を感じているようだ。

## 4. 妻京子

ヒングス夫婦の接待に張り切っていた京子。英会話をおさらいし、東京見物にどこへ連れて行くかを考えてと一生懸命である。が、ヒングス夫妻は自分たちの都合で動くため、予定通りに行かないのでイライラし始める。俊夫に接待しろと言っていたのにヒングスと飲み歩いてい

ると、仕事はどうするのかなどと言っている。ヒンギス夫人が横浜の友人宅に泊まると言い出したことでかんかんに怒って追い出す算段をしながらすき焼きを食べているところで終わる。一方俊夫はヒンギス氏のニーズに応え、うまく付き合っているようだった。

## 5. まとめ

昭和 42 年頃は高度経済成長期の真っ直中でアメリカに追いつけ追い越せの時期。終戦直後のアメリカとの格差を埋められたと思っている日本人と内心まだ日本を小馬鹿にしているような元駐留軍との駆け引きのような物語に感じた。(T)

## 遠藤周作『沈黙』(新潮文庫 1981)

### 1. 沈黙する神

「沈黙」、それは切支丹における主(神)が、信徒が社会から弾圧され、棄教を迫られる時に受けた拷問や精神的苦痛から救うことをせず、救いの祈りを受けてもなお、沈黙しているという、人間がいかなる場所、いかなる時代にも、深く突き当たる神との間の暗い闇を表している。

時は 1638 年 3 月 25 日、ポルトガルからインド艦隊に乗り込んだ 3 人の司祭が日本を目指すところから物語ははじまる。自分たちの恩師であるフェレイラが日本において、拷問の末、棄教したという知らせの真偽を確かめるためである。彼らの命運とともに、日本の隠れ切支丹の信仰や、迫害する側の想いなどが語られていき、フェレイラ棄教の真相にたどり着いていく。

### 2. 棄教

“棄教”とは、キリスト教信者にとって、最も屈辱的な行いであった。しかし、想像を絶する拷問、迫害を受けてなお、形だけでも信心を棄てることをしない彼らが痛ましく、私には到底理解が及ばない。キリスト教の独自なところは、人の命を犠牲にしてもその信仰を守るという強固な姿勢だと感じる。仏教は、死後の世界をメインに考えている。因果応報思想のもと、現世で善い行いをすることが重要となる。よって、仏教では自分が信仰を棄てないことで、他

人が殺されることなどあってはならない。

### 3. 日本人の信仰とは

フェレイラは、西洋人がキリスト教を信仰するのと同じように、日本人にキリスト教の信心を保たせることは困難であると考えた。

「二十年間、私は布教してきた」(中略)「知ったことはただこの国にはお前や私たちの宗教は所詮、根をおろさぬということだけだ」(p.194)

確かに、日本人は本地垂迹信仰のように、仏教を受け入れるときも、仏一つ一つに必ず、日本の土着の神を守り神としてセットにして受け入れるなど、海を渡ってきた宗教を独自の方法で受け入れてきた。しかし、それが本当の信仰でないとだれがいえようか。命を賭して、その信仰を守ろうとした時点で、神道も仏教もキリスト教もイスラム教も関係なく、一つの正真正正の信仰であると思う。日本に仏教が根付いたのは、あらゆるものを受け入れて赦すという教えが、人間の生きる上での真理と合致しており、キリスト教もイスラム教も神道も受け入れることが出来る懐の深さにあると私は考える。

(O)

## 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』(角川文庫 1994)

### 1. 登場人物

『銀河鉄道の夜』というと、青紫猫のジョバンニと赤猫のカンパネルラ、細野晴臣の音楽。ムチムチの猫手で切符を持っている。といったイメージ。これは漫画家のますむらひろしが主

人公たちを猫にした宮澤賢治作品シリーズから入ったためだと思う。

### 2. 銀河鉄道とは

私が思っていた銀河鉄道で走っている車両はもちろん SL で C57「貴婦人」タイプの客車牽

引用のものではなく D51 のような貨車牽引タイプの力強いもの。客席車内装は木製でボックス席のシートは赤の布張り。というイメージを持っていた。これは「銀河鉄道 999」の影響かと思うが、本文ではシートは青のビロード張り、汽車の動力は石炭でも電気でもアルコールでもなく、「動くように決まっているから動いている」(p.190)とある。

### 3. 讚美歌 306 番

1912 年のタイタニック号沈没時に楽団員が演奏したことで有名な讚美歌。姉弟（かおるとタダシ）と家庭教師の大学生の 3 名は約 1500 名の“助からなかった人”の代表者で、「わたくしたちは神様に召されているのです」とある。氷山にぶつかった船に乗っていて、沈没しここに来たと書かれている。この中で「どこからともなく三〇六番の声があがりました。」とある。三〇六番とは讚美歌三〇六番「主よ御許に近づくかん」と注記に書かれているが、昭和 29 年に改訂されて 320 番「向上」としてお葬式で良く歌われるよく知られた讚美歌の一つ。未確認だがアニメ『フランダースの犬』の最終回でネロとパトラッシュが昇天する時にも使われたとか。

### 4. サザンクロス駅

銀河鉄道は現世とあの世を結ぶ三途の川の渡し船なのかもしれない。生きたままのっているからジョバンニは緑の切符、カンパネルラは川に入ったから灰色の切符だったのだろう。この世界の住人の鳥捕りの切符の色は不明。カンパネルラはこの時点ではまだ生死不明だが、灰色の切符を持って銀河鉄道に乗り込んでいるところからして、サザンクロス駅で下車する予定ではなかったのかと考えられる。しかし、サザンクロス駅では下車せずに、石炭袋まで行っていることと、そこで「きれいな野原」が遠くに見えた時点で助からなかったという考え方もできる。カンパネルラはジョバンニと一緒にずっといたかったのだと考えるとサザンクロス駅を過ぎたところで力尽きてしまったと思える。

### 5. 車中最後に出てくる「博士」は何者なのか

「博士」はやさしいセロのような声をしていて、汽車の動力源の時に聞こえた声の持ち主。実験と称してジョバンニを銀河鉄道に乗せ、ジョバンニの言葉を記録している。最後には、この先思い悩んだら相談しに来なさいとお金と緑の切符まで渡して消えている。(T)

## 井伏鱒二 『黒い雨』 (新潮文庫 1985)

### 1. はじめに

戦争体験のない私達が歴史を知るためには、記録された映像を観る、人に話しを聞く、または本を読む方法がある。知ることはきっかけになって、私たちは過去に起きた歴史の上に立って生きているということを認識することができるのだ。

『はだしのゲン』の作者、中沢啓治は、体験したことを特に子供たちに伝えたいという一心でゲンを書いたそう。ゲンには「それでも生きていく」というメッセージが込められてる。悲惨な状況を想像しながら読むという行為はとてもエネルギーを必要とするが、このように先人が伝えたかったことを受け取りたいと感じる。

### 2. 生命の再生

この小説の終わり近くに主人公、閑間重松しずまの終戦当日の日記があげられている。「こんな綺麗な流れが、ここにあったのか」僕は気がつい

た。その流れのなかを鰻の子が行列をつくって、いそいそと遡っている……やあ、のぼるのぼる。水の匂いがするようだ」(p.315)。原爆投下後 70 年は草木も生えないといわれた地に、きれいな水が流れ、この地方でピリコと可愛らしい名前と呼ばれる鰻の子の姿に、可憐でありながらたくましい生命力を感じた。重苦しい話しの流れの中でパッと輝く、蘇生への望みを語っている文章だ。

### 3. 日記を記すという作業

物語は広島に原爆投下された数年後、やや落ち着いた生活を取り戻した頃が舞台。

重松の姪（養女）の矢須子は、直接被爆はしていないものの縁遠いのは原爆症の噂のためである。見合いの話が来た時、疑いを解消するために、重松と矢須子の当日の詳細な足取りの日記を記して相手に見せようとする。小説はこの日記が引用、挿入されて進む。結局、縁談は一方的に断られ、同時に矢須子に原爆の症状が



あらわれ始める。当時、黒い雨を浴びて、それがなかなか消えなかったということ、本人がふと思いつく瞬間は、見えないものが忍び寄る恐怖を感じた。重松が当時の日記を書いたのは、矢須子のためだけでなく、現実を受け止めようとする彼自身のための作業だったのではないかと感じた。

#### 4. 遺された者の苦悩・メッセージ

重松が友人と釣りに出かける場面で「結構なご身分ですな」と声をかけられ「きつい仕事をすると、この五体が自然に腐るんじゃ、怖ろ

しい病気が出て来るんじゃ」と答えると「ピカドンにやられたのを、売りものにして」と返される場面がある。生き残った者たちには、当時、被爆者という噂、差別が一生ついてまわった。

「広島や長崎が原爆されたことを忘れとる、みんなが忘れとる」(p.26)、「戦争は人間の判断力を麻痺させてしまう」(p.150)と重松は嘆き、耳鳴りが遠寺の鐘のように鳴りつづけるのを「原爆禁止をうったえる警鐘に聞きとれる」(p.218)というセリフは、現代を生きる私達へのメッセージだと感じた。(H)

## 展示・館員おすすめの本より

### 6・7月「憧れの人を見つけよう」(H)

- 須賀敦子・松山巖『須賀敦子が歩いた道』新潮社 2009  
志村ふくみ『語りかける花』人文書院 1992  
辰巳芳子『食に生きて 私が大切に思うこと』新潮社 2015  
尾崎真理子『ひみつの王国 評伝石井桃子』新潮社 2014  
由里幸子『幸田文』新典社 2003  
ベッキー・ベネネイト編『マザー・テレサ 愛のこころ最後の祈り』主婦の友社 2010  
永井隆『長崎の鐘』サンパウロ 1995  
石牟礼道子・藤原新也『なみだふるはな』河出書房新社 2014  
今江祥智『長新太が好き。』PHP 研究所 2008  
尾崎真理子『ひみつの王国 評伝石井桃子』新潮社 2014

### 8・9月「夜空を見上げてみよう」(T)

- 大枝史郎『月の満ちかけ絵本』あすなろ書房 2013  
はっとりみほ『つきにいったうさぎのおはなし』学研 2015  
藤井旭『全天星座百科』河出書房新社 2011  
海部宣男『カラー版すばる望遠鏡の宇宙』岩波新書 2007  
野本陽代『カラー版ハッブル望遠鏡宇宙の謎に挑む』講談社現代新書 2009  
日本文学全集3 森見登美彦訳『竹取物語』河出書房新社 2016  
新編日本古典文学全集12 『竹取物語』小学館 1994  
ジャン＝ピエール・ゲノ『星の王子さまのメモワール』駿河台出版社 2013

### 10・11月「芸術を読む」(O)

- 美術 夏目漱石『夢十夜』(岩波文庫) 岩波書店 1986  
宮尾登美子『序の舞』(『宮尾登美子全集』9所収) 朝日新聞社 1993  
W.S.モーム著 行方昭夫訳『月と六ペンス』(岩波文庫) 岩波書店 2005  
文学 朝井まかて『恋歌』講談社 2014  
田辺聖子『ひねくれ一茶』講談社 1992  
音楽 宮下奈都『羊と鋼の森』文藝春秋 2015  
中山七里『さよならドビュッシー』(宝島社文庫) 宝島社 2011  
建築 幸田露伴『五重塔』(岩波文庫) 岩波書店 2004  
文楽 有吉佐和子『一の糸』新潮社 1968  
茶道 山本兼一『利休にたずねよ』(PHP 文芸文庫) PHP 研究所 2010

あらためて考えよう 昔ばなしのすばらしさ  
おすすめの昔ばなし絵本5選

昔ばなしには、何百年も前から語り継がれ、時代にもまれながら生き残ってきた、おもしろいエッセンス満載のおはなしが沢山あります。

実習で読み聞かせの絵本に迷ったら、昔ばなしを取り上げてみてはいかがでしょうか？ 必ず子ども達の心を惹き付けることができるはずです。

ここではオススメの日本の昔ばなし絵本5冊を紹介したいと思います。

(大久保)

【笑える話】

長谷川摂子文 荒井良二絵『へっこきあねさ』岩波書店 2012

おならが豪快すぎるお嫁さんの昔ばなしは何パターンも存在しますが、ここでは荒井良二さんが絵を手がけたものをご紹介します。荒井良二さんのかわいらしい絵とおかしなお嫁さんのお話がマッチして子ども達もくぎづけになることでしょう。



【こわい話】

水沢謙一再話 梶山俊夫画『さんまいのおふだ』福音館書店 1990

やまんばが小僧さんをとことんまで追いかけるとも迫力のあるお話。緊迫感が子どもを惹き付けます。最後の和尚さんとやまんばのトンチ合戦もみどころ。



【泣ける話】

瀬戸内寂聴文 岡村好文絵『月のうさぎ』講談社 2008

自分の身を犠牲にして大切な人を助けるお話。この仏教における菩薩行という考えは宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のカムパネルラに通じています。

【恋する話】

矢川澄子再話 赤羽末吉画『つるにようぼう』福音館書店 1989

動物が恩返しをするお話は、昔ばなしから現代小説まで綿々と受け継がれてきた題材です。最近では映画にもなった『陽だまりの彼女』がそうですね。昔ばなしを知っていると、現代の小説などをより深く楽しむことができます。



【すっきりする話】

木下順二 著 清水崑絵『かにむかし』岩波書店 1976

だれもが知っている「さるかに合戦」。本書は読み聞かせしやすいよう、擬音を豊富に使うなどの工夫がされています。さる退治の場面も、残酷さはなく、子どもが無邪気に楽しめるようにさらっとしています。カップのイラストでおなじみの清水崑さんの絵が愛らしいです。

第2部 T・高橋和子 O・大久保美玲 H・原真由美

保育者になるための読書案内

これから社会に出て、仕事に就く人のために 2017

横浜女子短期大学図書館 2017.03.15